

(様式第10)

金 医 大 病 管 第 14 号  
平 成 26 年 10 月 3 日

東海北陸厚生局長 殿

学校法人 金沢医科大学  
理事長 竹 越 襄 印

金沢医科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和23年法律第205号）第12条の3の規定に基づき、平成25年度の業務  
に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒920-0293 石川県河北郡内灘町字大学1丁目1番地
氏 名	学校法人 金沢医科大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

金沢医科大学病院
----------

3 所在の場所

〒 920 - 0293	電話( 076 ) 286 - 3511
石川県河北郡内灘町字大学1丁目1番地	

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="checkbox"/> ① 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜
<input type="checkbox"/> ② 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無					
内科と組み合わせた診療科名等						
1 神経内科	2 内視鏡内科	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
診療実績						

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科名等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名等	
1 呼吸器外科 2 心臓血管外科 3 小児外科 4 整形外科 5 脳神経外科 6 形成外科 7	
8 9 10 11 12 13 14	
診療実績	

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他標榜していることが求められる診療科名

(1)精神科 (2)小児科 (3)皮膚科 (4)泌尿器科 (5)産科 (6)婦人科 (7)眼科
(8)耳鼻咽喉科 (9)リハビリテーション科 (10)放射線科 (11)病理診断科 12 呼吸器科 (13)消化器科
(14)循環器科 (15)麻酔科 16 救急科

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名等	
1 小児歯科 2 矯正歯科 3 4 5 6 7	
歯科の診療体制	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 2 3 4 5 6 7
8 9 10 11 12 13 14
15 16 17 18 19 20 21

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
36床	0床	0床	0床	799床	835床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成26年 7月 1日現在)

職 種	常 勤	非 常 勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数	
医 師	97 人	342 人	348.2 人	看護補助者	152 人	診療エック ス線技師	0 人	
歯科医師	6 人	0 人	6 人	理学療法士	33 人	臨床検査技 師	63 人	
薬 剤 師	43 人	0 人	43 人	作業療法士	15 人			衛生検査技 師
保 健 師	3 人	0 人	3 人	視能訓練士	10 人	臨 床 検 査	そ の 他	0 人
助 産 師	20 人	2 人	21.6 人	義肢装具士	0 人	あん摩マッサ ージ指圧師	0 人	
看 護 師	662 人	37 人	690.4 人	臨床工学技士	15 人	医療社会事 業従事者	5 人	
准看護師	2 人	4 人	4.1 人	栄 養 士	4 人	その他の技術員	22 人	
歯科衛生士	8 人	0 人	8 人	歯科技工士	3 人	事 務 職 員	87 人	
管理栄養士	16 人	0 人	16 人	診療放射線技師	33 人	その他の職員	57 人	

(注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。

(注) 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。

(注) 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成26年 7月 1日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	14 人	眼 科 専 門 医	5 人
外 科 専 門 医	23 人	耳鼻咽喉科専門医	8 人
精神科専門医	3 人	放射線科専門医	1 人
小児科専門医	10 人	脳神経外科専門医	7 人
皮膚科専門医	6 人	整形外科専門医	9 人
泌尿器科専門医	6 人	麻酔科専門医	7 人
産婦人科専門医	7 人	救急科専門医	6 人
		合 計	112 人

(注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1日当たり平均入院患者数	606.2 人	2.7 人	608.9 人
1日当たり平均外来患者数	1,102.7 人	33.8 人	1,136.5 人
1日当たり平均調剤数	入院 656.2 剤	外来 210.4 剤	
必 要 医 師 数			130.9 人
必 要 歯 科 医 師 数			2.0 人
必 要 薬 剤 師 数			21.0 人
必 要 ( 准 ) 看 護 師 数			344.0 人

(注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。

(注) 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

(注) 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

(注) 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

(注) 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

### 9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要	
集中治療室	793.9 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	病床数	20床
			人工呼吸装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] [移動式の場合]	床面積 台数	295.5 m <sup>2</sup> 8.0台	心電計 有・無 心細動除去装置 有・無 ペースメーカー 有・無 病床数 40床
医薬品 情報管理室	[専用室の場合] [共用室の場合]	床面積 共用する室名	58.1 m <sup>2</sup> なし	
化学検査室	877 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備)	
細菌検査室	167 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備)	
病理検査室	232 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備)	
病理解剖室	126 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備)	
研究室	18,605 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備)	
講義室	367 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数 2室	収容定員 373人
図書室	2,143 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数 11室	蔵書数 209,426冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

(注) 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

### 10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成 26年 4月 1日～平成 26年 8月 31日	
紹介率	53.5 %	逆紹介率	46.3 %
算出 根拠	A：紹介患者の数	3,996人	
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数	3,782人	
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数	374人	
	D：初診の患者の数	8,174人	

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

(注) 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

(注) 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
・多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	49 人
・光トポグラフィー検査を用いたうつ症状の鑑別診断補助	72 人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

## 高度の医療の提供の実績

## 3 その他の高度の医療

医療技術名	DNAマイクロアレイを用いた微細染色体構造異常の診断	取扱患者数	10 人
当該医療技術の概要（遺伝子医療センター） 多発先天奇形症候群に対し、現在通常に行われている染色体分析法（G分染法、FISH法）では診断がつかない症例に対し、DNAマイクロアレイを用いた微細染色体構造異常の解析を行っている。また、常染色体劣性遺伝性疾患のホモ変異患者に対し、SNPアレイを用いた片親性ダイソミーの診断を行っている。			
医療技術名	希少遺伝性疾患の遺伝子検査	取扱患者数	50 人
当該医療技術の概要（遺伝子医療センター） 単一遺伝子病の責任遺伝子は約3000疾患に関して判明しているが、日常診療で行える遺伝子検査は少なく、また殆んどは保険診療化されていない。遺伝子医療センターでは患者のニーズに応じたカスタムメイドの遺伝子検査を、遺伝カウンセリングとセットにして安価に提供している。現在100疾患以上の遺伝性疾患に対する遺伝子検査が可能であり、院内外からの紹介患者に、国内トップレベルの遺伝医療を提供している。			
医療技術名	MRIとPETの両者の結果の解析による肺腫瘍の良悪性および病期の診断	取扱患者数	40 人
当該医療技術の概要（呼吸器外科） 肺腫瘍の非観血的診断に関してPET-CTは広く応用されているが、隣接臓器浸潤の診断以外の目的でMRIを併用することは未だほとんど行われていない。我々の研究によれば、MRIを併用することにより良悪性の診断のみならず、リンパ節転移の正診率が著明に向上することが判明した。非侵襲的な検査としてきわめて有用な検査となっている。			
医療技術名	全身MRIによる原発性肺癌の血行性転移の検索	取扱患者数	3 人
当該医療技術の概要（呼吸器外科） 全身MRIによる病巣の質的診断は、現在端緒についたところであるが、我々の研究によれば、原発性肺癌の血行性転移の発見にも期待が持てることが示唆された。これからさらに症例を重ねて検討を続ける予定である。			
医療技術名	遺伝子解析による遺伝性内分泌疾患の診断	取扱患者数	8 人
当該医療技術の概要（小児科） 多発性内分泌腫瘍1型（MEN1）、先天性甲状腺機能低下症（MCT8、NKX2-1）、軟骨低形成症（FGFR3）、HDR症候群（GATA3）につき、患者末梢白血球からのゲノムDNAを用い、PCR産物のシークエンスにより遺伝子診断を行っている。			
医療技術名	コイル塞栓術	取扱患者数	10 人
当該医療技術の概要（小児科） 動脈管過依存症をはじめとした異常血管を有する先天性心疾患に対して行っているカテーテル治療である。心カテーテルを用いて異常血管にコイルを挿入し、塞栓を形成することにより血流を遮断する。外科的治療と比べてはるかに低侵襲である。			
医療技術名	造血幹細胞移植（臍帯血移植）	取扱患者数	2 人
当該医療技術の概要（小児科） 希少疾患である小児骨髄異形成症候群への根治的治療は造血幹細胞移植である。造血幹細胞の提供元としての臍帯血はHLA抗原の不一致への許容範囲が広く、かつ、保存された血液であるため移植時期の選定が容易である。この医療は血液悪性疾患の難治例や再発例にも有効な治療法である。			
医療技術名	腫瘍脊椎骨全摘術	取扱患者数	2 人
当該医療技術の概要（整形外科） 原発性脊椎腫瘍や限局した脊椎転移癌に対して、椎弓と椎体にわけ、それぞれ一塊として摘出切除する術式である。欠損した椎骨部分には人工椎体、後方は脊椎インストゥメンテーションを用いて脊柱再建を行う。高い局所根治が得られる。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること（当該医療が先進医療の場合についても記入すること）。

## 高度の医療の提供の実績

## 3 その他の高度の医療

医療技術名	脊柱後彎に対する骨切り矯正・固定術	取扱患者数	2 人
当該医療技術の概要（整形外科） 外傷による脊椎骨折に伴う高度な角状後彎変形に対して、後方から椎弓切除の上、椎体を楔状に骨切りし、全周除圧された脊髄を観察しながら後彎を矯正し、脊柱を再建する術式である。患者は正常な姿勢を再獲得し、合併していた逆流性食道炎も軽快する。			
医療技術名	リウマチによる頸椎脱臼、亜脱臼に対する矯正・固定術	取扱患者数	4 人
当該医療技術の概要（整形外科） リウマチにより、骨は菲薄化し、上位頸椎のみならず中下位頸椎も脱臼、亜脱臼をきたす。椎弓根スクリュー、側塊スクリューなどの脊椎インストゥメンテーションを用いて脊柱再建を行う。			
医療技術名	口唇口蓋裂のチーム医療	取扱患者数	110 人
当該医療技術の概要（形成外科） 口唇口蓋裂患者は、生下時より形態的異常とともに、成長に伴う鼻咽閉鎖機能異常による構音障害、耳管機能異常による中耳炎、顎裂による歯列不正や顎発育異常による咬合異常を呈してくる。これらの複合異常に対して、形成外科による初回唇裂・口蓋裂手術による口唇・口蓋の解剖的再建に引き続き、耳鼻咽喉科による耳管機能、聴覚機能の検索および治療、そして言語訓練、さらに矯正歯科による歯科矯正と形成外科による顎裂部への骨移植や上・下顎骨切りによる顎移動で歯列や咬合異常に対する再建など、患児の発育に伴い生じる異常に対して集学的に治療を行っている。			
医療技術名	チーム医療による頭蓋・顔面骨の骨切り移動術	取扱患者数	10 人
当該医療技術の概要（形成外科） 先天的もしくは後天的に生じた高度な頭蓋・顔面骨変形に対して、脳神経外科による開頭手技を併用して頭蓋・顔面骨を骨切り・移動し変形によって生じた機能的、整容的障害の改善を行っている。			
医療技術名	遊離皮弁を用いた頭頸部腫瘍切除後や乳癌切除後の再建	取扱患者数	10 人
当該医療技術の概要（形成外科） 頭頸部腫瘍や乳癌切除後の組織欠損に対して血管柄付き遊離皮弁もしくは血管柄付き遊離複合組織移植を用いて再建を行っている。			
医療技術名	髄液細胞のフローサイトメトリーを用いた炎症性疾患の診断と治療	取扱患者数	72 人
当該医療技術の概要（神経内科） 中枢神経内の炎症や免疫の状態は、通常髄液のルーチン検査として細胞数や蛋白、IgGの値から推定して病態を評価せざるを得ないのが現状である。しかし、髄液採取に際して一部の検体を低温下、低速遠心をかけて髄液細胞を回収し、その細胞の表面および内部の抗原をCD4、CD8、CD25、CD29、CD56、CCR3、CCR4、CCR5、CXCR3等に対するモノクローナル抗体で染色することにより、どのような役割を担った白血球が髄液内で増加あるいは減少しているかを採取同日に知ることができる。この方法により、中枢神経内で起こっている炎症性病態を的確に把握し、神経免疫疾患および神経完成症の正しい診断と治療選択肢に至ることを可能にしている。			
医療技術名	自己免疫性辺縁系脳炎の診断と治療	取扱患者数	200 人
当該医療技術の概要（神経内科） 抗NMDA受容体抗体が介在する自己免疫性脳炎は、若年女性に急性の経過で精神症状、けいれん重積、意識障害、呼吸不全などの重篤な症状を呈するもので、卵巣奇形腫が潜在することが多く、早期に腫瘍切除および血漿交換や免疫療法を行えば、ほぼ完治する。診断には、患者髄液・血清中の抗NMDA受容体抗体を検出することが重要である。我々は、NMDA受容体NR1/NR2ヘテロマーを用いたcell-based assay法による抗NMDA受容体抗体の検出系を確立し、本邦で唯一の抗体検査可能施設であることから、全国諸施設からの抗体診断依頼を受けており、その結果を速やかに診療現場に還元して、適切な加療をガイドしている。			
医療技術名	腎生検組織モノクローナル抗体染色	取扱患者数	100 人
当該医療技術の概要（腎臓内科） 従来、腎生検組織の検査は、光顕、電顕に加えて蛍光抗体による免疫グロブリン補体の染色のみが保険適用されてきたが、糸球体構成成分及び病態関連分子に対するモノクローナル抗体の検索によって、より高度の診断が可能である。(C4d, C3d, HLA-DR, HLA-G1, CD45, CoL I / III / IV / VI, CoL4 α 5 / α 2, DNA cross-linking)			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。



## 高度の医療の提供の実績

## 3 その他の高度の医療

医療技術名	ダットスキャン（ドパミントランスポーターシンチグラフィ）	取扱患者数	1 人
当該医療技術の概要（高齢医学科） ダットスキャンを用いたSPECT検査を既存の診断情報に追加することにより、レビー小体型認知症の診断に貢献する。また、ダットスキャンの線条体への集積低下は、レビー小体型認知症国際臨床診断基準（2005年改訂版）において示唆症状の一つに挙げられている。			
医療技術名	光トポグラフィー検査	取扱患者数	33 人
当該医療技術の概要（神経科精神科） 光トポグラフィー検査とは、うつ症状のある患者を対象とし、光トポグラフィー装置を用い、近赤外光を使用して語流暢性課題中の前頭葉の酸素化ヘモグロビン濃度の変化パターンを可視化する検査である。酸素化ヘモグロビンの変化パターンからうつ病と双極性障害、うつ病と統合失調症の鑑別を行う事ができる。			
医療技術名	造血幹細胞移植（臍帯血移植）	取扱患者数	11 人
当該医療技術の概要（血液・リウマチ膠原病科） 主に難治性の血液悪性疾患を対象に造血幹細胞移植を行なっている。平成25年は自家末梢血幹細胞移植5件、同種移植6件（血縁者間骨髄移植1件、非血縁者間骨髄移植3件、臍帯血移植2件）を行なった。			
医療技術名	顎関節脱臼の低侵襲手術	取扱患者数	15 人
当該医療技術の概要（歯科口腔科） 全身疾患や認知症を基礎疾患として有する顎関節脱臼患者の整復・固定手術を鎮静および局所麻酔下で施術するものである。			
医療技術名	超音波気管支内視鏡下針穿刺（EBUS-TBNA）	取扱患者数	9 人
当該医療技術の概要（呼吸器内科） 超音波気管支内視鏡にてリンパ節病変を確認しながらリアルタイムに針穿刺生検を行う方法。			
医療技術名	ガイドシース併用気管支腔内超音波断層法（EBUS-GS）	取扱患者数	46 人
当該医療技術の概要（呼吸器内科） 主に肺野末梢の小型病変の組織採取を行う際、エコープローブで病変の存在を確認しながらガイドシースを誘導気管支内に留置し、より確実に組織採取を行う方法。			
医療技術名	羊膜移植術	取扱患者数	1 人
当該医療技術の概要（産科婦人科） 羊膜は抗原性のない組織であり、ヒト眼表面の再構築に使用し有効であったとする報告が1995年にMiami大学のTseng, SC教授らによりなされた。その後、羊膜は様々な消炎性のサイトカインを放出し新生血管の抑制、増殖組織の抑制の効果もあることが判明し、本邦でも一部の施設で使用され始めている。当科においても1999年に大学倫理委員会より許可を得ることが出来たため、産婦人科の協力により羊膜の提供を受け、難治性の外眼部疾患患者に羊膜移植術を開始している。			
医療技術名	新生児代謝異常検査	取扱患者数	300 人
当該医療技術の概要（産科婦人科） この検査は新生児に尿をガスクロマトグラフィー質量分析（GC/MS）法により検査することで、22項目の代謝異常症を早期に診断し、もし異常があれば治療を行い、心身障害の発症を予防することが可能である。採尿はろ紙をおむつにはさんでしめらせるだけなので、新生児には負担はかからない。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

## 高度の医療の提供の実績

## 3 その他の高度の医療

医療技術名	卵巣動脈血流解析による排卵予知	取扱患者数	30 人
当該医療技術の概要 (産科婦人科) 体外受精—胚移植を含めたhCGを用いた排卵誘発時に、卵巣動脈の血行動態をカラードップラー法で測定・解析し、hCG投与1～3時間後の卵巣血流量をみて排卵が順調に行われるかどうかを予測する方法である。非侵襲的な方法であり、測定時間も短く、患者にとっての負担はほとんどない。卵巣血流量解析からhCG投与3～6時間後の順調な排卵が予測できない場合には、高額な費用がかかる体外受精—胚移植をキャンセルするなど、体外受精—胚移植の成績向上および医療経済学的に有用な方法である。			
医療技術名	腎、肝移植後ならびに透析患者の妊娠分娩管理	取扱患者数	3 人
当該医療技術の概要 (産科婦人科) 移植後患者や透析患者の性機能の回復は、本人や家族にとり大きな福音である。しかし、妊娠に伴う移植臓器への影響、拒絶反応、精神的負担などの問題がある。国内外で極めて稀な腎移植後の自然排卵による品胎妊娠、死体腎移植および本邦初の肝移植後などの妊娠前から妊娠中、分娩および分娩後と長期間の厳重な管理を行っている。			
医療技術名	黄体化未破裂卵胞に対するG-CSF療法	取扱患者数	5 人
当該医療技術の概要 (産科婦人科) 不妊症の一般的な治療のひとつに、排卵誘発剤のクロミフェン—サイトレートとhCGを使用した排卵を促進させる治療法がある。この治療を行うと卵を持った卵胞は直径18mm以上に発育し、hCGの注射により48時間以内に排卵を認めるのだが、なかには卵胞は発育するが排卵せずに黄体化未破裂卵胞になる症例も少なくない。本治療は排卵誘発の際に黄体化未破裂卵胞を認めた症例に対しG-CSFを投与し、高い確率で排卵を認めるだけでなく正常排卵例と同程度に妊娠成立を認める有用な治療である。			
医療技術名	子宮頸部上皮内腫瘍・尖圭コンジローマに対するフェノール療法	取扱患者数	50 人
当該医療技術の概要 (産科婦人科) 子宮頸癌はヒトパピローマウイルス (HPV) 感染によって誘発されることが明らかになっている。子宮頸癌検診で見つかる異常の多くは上皮内腫瘍 (CIN) であるが、発見されても治療法はないため、初期のCINの場合は自然治癒するまで外来通院させるしか方法がない。また、別のタイプのHPV感染が原因の尖圭コンジローマに対する簡単な外来治療法も存在しない。CINや尖圭コンジローマ患者に対する簡単かつ確実な治療法として、我々はフェノール療法を開発し治療をおこなっている。現在のところ、治療効果は100%である。			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要 ( )			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要 ( )			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要 ( )			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要 ( )			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾 患 名	取扱患者数	疾 患 名	取扱患者数
・ベーチェット病	16 人	・膿疱性乾癬	5 人
・多発性硬化症	63 人	・広範脊柱管狭窄症	3 人
・重症筋無力症	40 人	・原発性胆汁性肝硬変	35 人
・全身性エリテマトーデス	101 人	・重症急性膵炎	5 人
・スモン	1 人	・特発性大腿骨頭壊死症	74 人
・再生不良性貧血	18 人	・混合性結合組織病	13 人
・サルコイドーシス	47 人	・原発性免疫不全症候群	3 人
・筋萎縮性側索硬化症	22 人	・特発性間質性肺炎	8 人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	81 人	・網膜色素変性症	19 人
・特発性血小板減少性紫斑病	30 人	・プリオン病	0 人
・結節性動脈周囲炎	29 人	・肺動脈性肺高血圧症	7 人
・潰瘍性大腸炎	92 人	・神経線維腫症	11 人
・大動脈炎症候群	18 人	・亜急性硬化性全脳炎	0 人
・ビュルガー病	16 人	・バッド・キアリ (Budd-Chiari) 症候群	0 人
・天疱瘡	15 人	・慢性血栓性肺高血圧症	6 人
・脊髄小脳変性症	43 人	・ライソゾーム病	0 人
・クローン病	45 人	・副腎白質ジストロフィー	1 人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0 人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0 人
・悪性関節リウマチ	14 人	・脊髄性筋萎縮症	3 人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	123 人	・球脊髄性筋萎縮症	3 人
・アミロイドーシス	1 人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	7 人
・後縦靭帯骨化症	95 人	・肥大型心筋症	5 人
・ハンチントン病	0 人	・拘束型心筋症	0 人
・モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)	18 人	・ミトコンドリア病	1 人
・ウェゲナー肉芽腫症	1 人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	1 人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	19 人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0 人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガ症候群)	35 人	・黄色靭帯骨化症	6 人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	3 人	間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常 症、ADH分泌異常症、下垂体性TSH分泌異 常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能 低下症)	118 人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。





(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 7 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・ 光トポグラフィー抑うつ症状の鑑別診断の補助に使用するもの	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

#### 8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	毎月不定期に開催しております。
剖 検 の 状 況	剖検症例数 41 例 / 剖検率 13.9 %

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
分岐理論に基づくヒト固有心筋自動能の発生機序並びに合理的制御法の解明	倉田 康孝	生理学Ⅱ	¥2,700,000	補 委 (独) 日本学術振興会
類器官培養における癌浸潤モデルの構築と蛍光イメージング	清川 悦子	病理学Ⅰ	¥3,500,000	補 委 (独) 日本学術振興会
母胎児間シグナルチューニング機構の分子基盤解明	八田 稔久	解剖学Ⅰ	¥7,900,000	補 委 (独) 日本学術振興会
DNA二重鎖切断修復からアポトーシスへのシグナル変換における53BP1の機能解析	岩淵 邦芳	生化学Ⅰ	¥2,000,000	補 委 (独) 日本学術振興会
環状ホスファチジン酸による抗動脈硬化作用を利用した治療創薬の基盤開発	塚原 完	血液免疫内科学	¥6,600,000	補 委 (独) 日本学術振興会
うつ病者の自殺予防に関する感情調整療法アプローチの開発	長谷川 雅美	看護学部	¥2,400,000	補 委 (独) 日本学術振興会
現代の食習慣の特徴と非アルコール性脂肪性肝障害の発症・進展との関連性に関する研究	竹内 正義	先端医療研究領域	¥6,500,000	補 委 (独) 日本学術振興会
栄養応答シグナルの破綻による代謝疾患の発症機構の理解と制御手段の確立	古家 大祐	糖尿病・内分泌内科学	¥7,800,000	補 委 (独) 日本学術振興会
無作為化比較試験による胸部CT検診の感度・特異度算出と死亡率減少効果の推定	佐川 元保	呼吸器外科学	¥4,500,000	補 委 (独) 日本学術振興会
ベトナムにおけるダングの胎児脳機能と乳幼児脳神経発達に及ぼす影響	西条 旨子	公衆衛生学	¥6,500,000	補 委 (独) 日本学術振興会
母胎間シグナル伝達による胎児大脳新皮質の好氣的誘導	島田 ひろき	解剖学Ⅰ	¥800,000	補 委 (独) 日本学術振興会
母胎間シグナル伝達による胎児赤血球脱核機構の解析～胎盤の造血ニッチとしての役割～	島村 英理子	解剖学Ⅰ	¥800,000	補 委 (独) 日本学術振興会
アナフィラキシーショックにおける脳循環の統合的研究	芝本 利重	生理学Ⅱ	¥1,900,000	補 委 (独) 日本学術振興会
脂肪肝の虚血再灌流障害に対する運動トレーニングの効果	宮前 俊一	生理学Ⅱ	¥1,400,000	補 委 (独) 日本学術振興会
ヒト心筋細胞の世界標準モデル構築：分岐解析並びに比較生理学的手法によるアプローチ	倉田 康孝	生理学Ⅱ	¥800,000	補 委 (独) 日本学術振興会
高転移性ルイス肺癌細胞株が類洞様腫瘍血管を誘導する分子基盤の解明	米倉 秀人	生化学Ⅱ	¥1,000,000	補 委 (独) 日本学術振興会
カルシウムセンサーSTIM1の扁平上皮がん細胞増殖における機能解析	吉田 純子	薬理学	¥1,000,000	補 委 (独) 日本学術振興会
レンズ上皮細胞の形態維持機構の解明	清川 悦子	病理学Ⅰ	¥1,800,000	補 委 (独) 日本学術振興会

CM2の塩素イオンチャネル活性はC型インフルエンザウイルスの増殖を制御するか？	村木 靖	微生物学	¥1,400,000	補 委	(独) 日本学術振興会
Scaffoldウイルス感受性を規定する宿主因子の同定から指向した病原性解析	大原 義朗	微生物学	¥1,600,000	補 委	(独) 日本学術振興会
IgG4関連疾患におけるThy-1、PDGFの発現に関する解析	黒瀬 望	臨床病理学	¥800,000	補 委	(独) 日本学術振興会
悪性中皮腫におけるATBF1の細胞内動態解析と癌幹細胞マーカー発現の有無	湊 宏	臨床病理学	¥1,300,000	補 委	(独) 日本学術振興会
職業性ストレスがoccupational injury発生におよぼす研究	石崎 昌夫	衛生学	¥500,000	補 委	(独) 日本学術振興会
喫煙者のCKD兆候の特徴とその意義の解明	登坂 由香	衛生学	¥700,000	補 委	(独) 日本学術振興会
慢性腎臓病に伴う甲状腺機能異常と循環器疾患危険因子に関する疫学研究	櫻井 勝	公衆衛生学	¥600,000	補 委	(独) 日本学術振興会
睡眠状況と高感度CRPとの関連の縦断的検討	中村 幸志	公衆衛生学	¥600,000	補 委	(独) 日本学術振興会
栄養薬理遺伝学を用いた次世代抗凝固療法の開発	梶波 康二	循環器内科学	¥1,700,000	補 委	(独) 日本学術振興会
心疾患におけるデオキシリボ核酸分解酵素Iのアポトーシス誘導効果に関する研究	河合 康幸	循環器内科学	¥200,000	補 委	(独) 日本学術振興会
血管内皮前駆細胞に注目した肺気腫病変と肺気腫合併肺高血圧の病態解析	水野 史朗	呼吸器内科学	¥1,300,000	補 委	(独) 日本学術振興会
肺がん化学療法における交流磁場併用療法の開発	小林 誠	呼吸器内科学	¥1,000,000	補 委	(独) 日本学術振興会
肺サーファクタント輸送異常による間質性肺炎の病態解明	長内 和弘	呼吸器内科学	¥1,000,000	補 委	(独) 日本学術振興会
前向き腎移植コホートにおける慢性移植腎障害関連分子に関するプロテオミクス解析	横山 仁	腎臓内科学	¥1,500,000	補 委	(独) 日本学術振興会
IgG4関連疾患における疾患特異的に変動する代謝物群を利用したメタボロミクス解析	岩男 悠	血液免疫内科学	¥1,700,000	補 委	(独) 日本学術振興会
抗グルタミン酸受容体抗体が関与する脳炎発症機序の解明	田中 恵子	神経内科学	¥800,000	補 委	(独) 日本学術振興会
コンピュータ白血球幹細胞システムによる再発動態解析と治療開発への基盤創成	犀川 太	小児科学	¥1,100,000	補 委	(独) 日本学術振興会
ストロンチウム治療後におけるリンパ球の放射線組織障害の検討	道合 万里子	放射線医学	¥1,400,000	補 委	(独) 日本学術振興会
放射性ヨード治療におけるリンパ球のDNA損傷に関する検討	渡邊 直人	放射線医学	¥900,000	補 委	(独) 日本学術振興会
化学放射線療法の早期効果判定におけるbiomarker imagingの定量評価	的場 宗孝	放射線医学	¥500,000	補 委	(独) 日本学術振興会



ステロイド誘発性大腿骨頭壊死の遺伝子修飾骨髄由来組織幹細胞の全身投与による予防	市堰 徹	整形外科学	¥900,000	補 委	(独) 日本学術振興会
眼部紫外線防御アイテムとしての眼鏡の有効性評価に関する研究	佐々木 洋	眼科学	¥1,000,000	補 委	(独) 日本学術振興会
白内障発症におけるトロポミオシン遺伝子の役割と白内障予防に関する研究	久保 江理	眼科学	¥900,000	補 委	(独) 日本学術振興会
尿路結石におけるHMGB1とRAGEによる発生機序の解明と阻止機構の証明	宮澤 克人	泌尿器科学	¥1,400,000	補 委	(独) 日本学術振興会
黄体化未破裂卵胞を中心とした排卵障害治療におけるG-CSFの有効性に関する研究	牧野田 知	産科婦人科学	¥1,000,000	補 委	(独) 日本学術振興会
高齢者における慢性腎臓病の指標としてのADMAと冠動脈石灰化進展に関する追跡研究	長澤 晋也	健康管理センター	¥400,000	補 委	(独) 日本学術振興会
頭部外傷による呼吸及び循環中枢の神経細胞障害の解析及び法医病理学的診断への応用	北村 修	法医学	¥1,500,000	補 委	(独) 日本学術振興会
覚醒剤濫用によるアルファシヌクレイン障害とエピジェネティクス的变化の解析	王 路	法医学	¥1,000,000	補 委	(独) 日本学術振興会
53BP1によるDNA二重鎖切断端の運動性亢進は、末端結合修復能を向上させるか	橋本 光正	一般教育機構	¥1,300,000	補 委	(独) 日本学術振興会
工学的関心に則したロボット倫理学の構築	本田 康二郎	一般教育機構	¥2,300,000	補 委	(独) 日本学術振興会
胎盤形成におけるガレクチンファミリーの機能解析	東海林 博樹	一般教育機構	¥800,000	補 委	(独) 日本学術振興会
音響・調音データベースに基づくバイオフィードバックによる英文リズム学習方法の開発	澁谷 良穂	一般教育機構	¥1,400,000	補 委	(独) 日本学術振興会
働く人々のバーンアウトと循環器疾患リスクに関する縦断研究	北岡 和代	看護学部	¥900,000	補 委	(独) 日本学術振興会
炎症関連大腸がんにおけるレプティンシグナル系の関与	甲野 裕之	看護学部	¥1,000,000	補 委	(独) 日本学術振興会
大規模労働者集団における睡眠状況と10年間の血圧変化に関する縦断研究	中島 素子	看護学部	¥2,200,000	補 委	(独) 日本学術振興会
赤外線曝露による眼内の三次限熱動態解析	小島 正美	看護学部	¥200,000	補 委	(独) 日本学術振興会
認知症高齢者の家族介護者のストレスが血圧に及ぼす影響と健康支援	櫻井 志保美	看護学部	¥500,000	補 委	(独) 日本学術振興会
訪問看護師向け長期膀胱留置カテーテル閉塞予防・対応プロトコールの開発、効果検証	前田 修子	看護学部	¥900,000	補 委	(独) 日本学術振興会
虚弱高齢者に対する介護予防サポーターによる「声かけ訪問」プログラムの開発と評価	浜崎 優子	看護学部	¥1,900,000	補 委	(独) 日本学術振興会
ストーマ周囲皮膚障害予防のためのセルフケア教育システムの構築	紺家 千津子	看護学部	¥800,000	補 委	(独) 日本学術振興会

夜勤労働の前立腺疾患リスクにおける老化バイオマーカーの関連についての縦断研究	森河 裕子	看護学部	¥900,000	補 委	(独) 日本学術振興会
UBR4/p600-HPV16 E7相互作用による発がんメカニズム	田崎 隆史	生命科学研究領域	¥2,100,000	補 委	(独) 日本学術振興会
生活圏内での感染症媒介昆虫(蚊)とヒトの接触頻度と患者数の関係	村上 学	生命科学研究領域	¥1,200,000	補 委	(独) 日本学術振興会
神経幹細胞における新規中心体制御機構の解析	石垣 靖人	生命科学研究領域	¥1,400,000	補 委	(独) 日本学術振興会
化学療法により誘発されるEMT誘導因子の同定とその制御による膀胱がん治療法の開発	島崎 猛夫	先端医療研究領域	¥500,000	補 委	(独) 日本学術振興会
セリンプロテアーゼインヒビターによるアレルギー反応の制御機構の解明	中村 晃	免疫学	¥1,200,000	補 委	(独) 日本学術振興会
高度たんぱく質制限の尿細管オートファジー活性化を介した糖尿病腎症抑制機序の解明	北田 宗弘	糖尿病・内分泌内科学	¥1,200,000	補 委	(独) 日本学術振興会
非アルコール性脂肪肝炎の予測因子としての脂質代謝酵素測定意義の樹立	小林 淳二	総合内科学	¥1,100,000	補 委	(独) 日本学術振興会
統合失調症の発症臨界期における社会認知障害の臨床研究	川崎 康弘	精神神経科学	¥1,200,000	補 委	(独) 日本学術振興会
周術期肺傷害におけるRAGEの役割の研究	佐久間 勉	呼吸器外科学	¥1,000,000	補 委	(独) 日本学術振興会
肺腺癌の転移機構: HIF-1/ヒストン修飾調節によるAQP1の過剰発現	町田 雄一郎	呼吸器外科学	¥1,200,000	補 委	(独) 日本学術振興会
MR拡散強調画像と血管新生因子・遺伝子解析による肺良悪性病変の悪性度の研究	薄田 勝男	呼吸器外科学	¥1,400,000	補 委	(独) 日本学術振興会
神経性嗅覚障害の病態解明と治療への応用-鍵を握るのはエストロゲンか成長因子か?-	三輪 高喜	耳鼻咽喉科学	¥1,400,000	補 委	(独) 日本学術振興会
食べ方の指導による嗅神経再生効果の画像解析研究	志賀 英明	耳鼻咽喉科学	¥1,000,000	補 委	(独) 日本学術振興会
環境ホルモンによる変形性顎関節症の発症機序と病態機構の解明	金山 景錫	顎口腔外科学	¥1,500,000	補 委	(独) 日本学術振興会
母胎間シグナル伝達から迫る精神・神経疾患スペクトラムの胎児起源仮説	八田 稔久	解剖学 I	¥900,000	補 委	(独) 日本学術振興会
DNA損傷修復蛋白質53BP1は抗DNA抗体産生に対する免疫寛容を誘導するか	岩淵 邦芳	生化学 I	¥1,400,000	補 委	(独) 日本学術振興会
ダイオキシンによる発達障害児のメタボロミクス研究	中川 秀昭	公衆衛生学	¥1,400,000	補 委	(独) 日本学術振興会
双方向学習およびTBL活用を目指した電子ノートシステムの開発	黒田 尚宏	医学教育学	¥1,800,000	補 委	(独) 日本学術振興会
妊娠期からの産後うつ発症予測基準の開発とその有効性の検証	笹野 京子	看護学部	¥500,000	補 委	(独) 日本学術振興会

タクティールケア介入による睡眠への効果検証	坂井 恵子	看護学部	¥800,000	補 委	(独) 日本学術振興会
認知症高齢者に対しタクティールケアを施す家族自身に及ぼすリスク効果の検証	小泉 由美	看護学部	¥1,900,000	補 委	(独) 日本学術振興会
外来化学療法を受けて生活するがん患者のサバイバーシップを支援する看護モデルの開発	田村 幸子	看護学部	¥500,000	補 委	(独) 日本学術振興会
更年期女性におけるタクティールケア介入への効果検証	河野 由美子	看護学部	¥1,000,000	補 委	(独) 日本学術振興会
在宅終末期ケアに携わる訪問看護師の看護倫理教育の展開と組織化に関する研究	平山 恵美子	看護学部	¥800,000	補 委	(独) 日本学術振興会
発達障がい児をもつ養育期家族に対する支援プログラムの開発と効果評価	宮内 環	看護学部	¥600,000	補 委	(独) 日本学術振興会
点滴静脈内注射の血管外漏出の有無の客観的判定指標の開発	松井 優子	看護学部	¥100,000	補 委	(独) 日本学術振興会
新しい緑膿菌タイピング法の開発と臨床応用	飯沼 由嗣	臨床感染症学	¥1,100,000	補 委	(独) 日本学術振興会
新たなIL-4産生調節経路によるアレルギー抑制法の開発	浅野 喜博	先端医療研究領域	¥1,200,000	補 委	(独) 日本学術振興会
内因性抗線維化分子に着目した、腎線維化の制御手段開発	永井 貴子	糖尿病・内分泌内科学	¥700,000	補 委	(独) 日本学術振興会
オートファジー制御による糖尿病腎症に対する新たな治療薬の開発	古家 大祐	糖尿病・内分泌内科学	¥1,200,000	補 委	(独) 日本学術振興会
急性肺障害に対する遺伝子修飾骨髄由来間葉系幹細胞の全身投与による治療法の確立	田中 良	呼吸器外科学	¥1,100,000	補 委	(独) 日本学術振興会
2型糖尿病患者の運動療法の捉え方からみた運動療法看護教育プログラムの有効性の検証	山崎 松美	看護学部	¥1,800,000	補 委	(独) 日本学術振興会
味覚BMIの臨床応用に向けた味覚神経回路の機能的かつ形態学的な解析	藺村 貴弘	解剖学Ⅱ	¥600,000	補 委	(独) 日本学術振興会
うつ症状発現におけるCRFの扁桃体GABA作動系制御メカニズム	山本 亮	生理学Ⅰ	¥1,100,000	補 委	(独) 日本学術振興会
抗がん剤によるDNA二本鎖切断の修復経路操作と細胞死誘導の解析	逆井 良	生化学Ⅰ	¥1,500,000	補 委	(独) 日本学術振興会
53BP1を介したアポトーシス細胞表面へのヌクレオソーム露出の機構と意義の解明	砂谷 優実	生化学Ⅰ	¥1,700,000	補 委	(独) 日本学術振興会
眼内血管形成における可溶性VEGF受容体の役割：個体レベルでの解明	池田 崇之	生化学Ⅱ	¥600,000	補 委	(独) 日本学術振興会
血管は神経の働きかけにどう応答するか？血管形成におけるJunBの新しい役割の解明	吉富 泰央	生化学Ⅱ	¥800,000	補 委	(独) 日本学術振興会
細胞内ムスカリン受容体によるシナプス可塑性制御機構の解明と認知症との関連性	益岡 尚由	薬理学	¥1,700,000	補 委	(独) 日本学術振興会

リン酸化モチーフの比較進化解析から細胞機能とモチーフの関係を明らかにする	吉崎 尚良	病理学 I	¥1,500,000	補 委	(独) 日本学術振興会
Saffoldウイルスの病原性解明を目指した感染受容体の探索研究	姫田 敏樹	微生物学	¥1,600,000	補 委	(独) 日本学術振興会
IgG4関連疾患患者血清中の疾患特異的に変動するタンパク質群の網羅解析	河南 崇典	血液免疫内科学	¥1,300,000	補 委	(独) 日本学術振興会
IgG4関連疾患患者末梢血単核球におけるトランスクリプトーム解析	中島 章夫	血液免疫内科学	¥1,200,000	補 委	(独) 日本学術振興会
イノシトール脂質PIP2のシナプス構造可塑性への影響	上田 善文	血液免疫内科学	¥1,700,000	補 委	(独) 日本学術振興会
肥満細胞の制御を介した血管性認知症に対する新規治療法の開発	北村 彰浩	神経内科学	¥1,900,000	補 委	(独) 日本学術振興会
ラットアナフィラキシーショック時の肝血管収縮に対する肝血管造影法による検討	北楯 優隆	放射線医学	¥1,400,000	補 委	(独) 日本学術振興会
毒素産生性黄色ブドウ球菌の保菌調査および抗毒素抗体価の検討	西尾 明子	形成外科学	¥1,200,000	補 委	(独) 日本学術振興会
翼状片発症機構の解明と予防薬の開発に関する研究	柴田 奈央子	眼科学	¥1,600,000	補 委	(独) 日本学術振興会
覚醒剤少量反復投与ラットの神経細胞障害の解析～小胞体ストレスからのアプローチ～	武市 敏明	法医学	¥1,300,000	補 委	(独) 日本学術振興会
学習データの自動生成による希少細胞検出システムの研究	織田 英人	FDD-MBセンター	¥900,000	補 委	(独) 日本学術振興会
ガレクチン制御性オートファジーを介した胎盤形成機構の解明	有川 智博	一般教育機構	¥1,700,000	補 委	(独) 日本学術振興会
ストレスモデルに基づく行動制限最小化看護介入の開発に関する研究	長山 豊	看護学部	¥600,000	補 委	(独) 日本学術振興会
外来化学療法を行う大腸がん術後患者のマネジメント能力を高めるケア基準の開発	北村 佳子	看護学部	¥700,000	補 委	(独) 日本学術振興会
養育者の心理傾向に着目した虐待へのポピュレーションアプローチに関する研究	寺井 孝弘	看護学部	¥1,300,000	補 委	(独) 日本学術振興会
日本脳炎ウイルス感染におけるスフィンゴミエリン/脂質ラフトの役割	谷口 真	生命科学研究領域	¥1,500,000	補 委	(独) 日本学術振興会
TLR9シグナルの新規制御分子Sortilinの機能解析	和田 俊樹	免疫学	¥1,700,000	補 委	(独) 日本学術振興会
転写因子ストークヘッドボックス1蛋白の生物学的・病理学的意義の検討	金崎 めぐみ	糖尿病・内分泌内科学	¥1,100,000	補 委	(独) 日本学術振興会
COMT不全とホモシステイン相互作用が演じる病理学的意義の解明	金崎 啓造	糖尿病・内分泌内科学	¥1,200,000	補 委	(独) 日本学術振興会
マウス骨髄脂肪の加齢におけるスフィンゴ脂質変化の解析とその造血幹細胞に与える影響	小木曾 英夫	血液免疫内科学	¥1,300,000	補 委	(独) 日本学術振興会

新規組織透明化技術を応用した教育用透明臓器標本の作製	三谷 真弓	医学部庶務課	¥600,000	補 委	(独) 日本学術振興会
嗅神経及び腫瘍へ集積し高エネルギーを付与する原子核プローブに関する核放射化学研究	志賀 英明	耳鼻咽喉科学	¥50,000	補 委	(独) 日本学術振興会
器官・組織形成期の発生異常に基づく上皮管腔組織形成障害	八田 稔久	解剖学 I	¥1,000,000	補 委	(独) 日本学術振興会
細胞内情報伝達系の多次元FRETイメージング	清川 悦子	病理学 I	¥3,000,000	補 委	(独) 日本学術振興会
細胞機能と分子活性の多次元蛍光生体イメージング	清川 悦子	病理学 I	¥2,000,000	補 委	(独) 日本学術振興会
東アジア共通性マダニが媒介する新興アナプラズマ症、紅斑熱群、ライム病の分子疫学	及川 陽三郎	医動物学	¥300,000	補 委	(独) 日本学術振興会
働く人々のバーンアウトと循環器疾患リスクに関する縦断研究	中川 秀昭	公衆衛生学	¥200,000	補 委	(独) 日本学術振興会
ベトナムにおけるダイオキシン類暴露と性ホルモン・前立腺がんに関する疫学研究	中川 秀昭	公衆衛生学	¥100,000	補 委	(独) 日本学術振興会
交流磁場を用いた抗がん剤の標的治療技術の開発	小林 誠	呼吸器内科学	¥100,000	補 委	(独) 日本学術振興会
アジア太平洋地域における膜性腎症の実態調査研究	横山 仁	腎臓内科学	¥500,000	補 委	(独) 日本学術振興会
アジア腎生検レジストリーの創設と最適な腎疾患治療を目指すアジア腎疾患コホート研究	横山 仁	腎臓内科学	¥250,000	補 委	(独) 日本学術振興会
ナノマテリアルに対する特異的受容体の同定	塚原 完	血液免疫内科学	¥100,000	補 委	(独) 日本学術振興会
カーボンナノチューブによる骨芽細胞の石灰化促進メカニズムの解明	塚原 完	血液免疫内科学	¥100,000	補 委	(独) 日本学術振興会
網羅的自己抗体プロファイリング法に基づく免疫性神経疾患の病態解明と治療戦略の構築	田中 恵子	神経内科学	¥1,750,000	補 委	(独) 日本学術振興会
アジアにおけるヒトパピローマウイルス遺伝子型・垂型の分布と癌化リスクの解明	笹川 寿之	産科婦人科学	¥200,000	補 委	(独) 日本学術振興会
記述に根ざした技術の現象学的研究：技術の記述的探求と批判的視点の確立	本田 康二郎	一般教育機構	¥100,000	補 委	(独) 日本学術振興会
不確実性に対する合意形成に関する応用倫理的考察	本田 康二郎	一般教育機構	¥100,000	補 委	(独) 日本学術振興会
寝たきり高齢者の褥瘡予防のための圧分散と寝床内環境調整を加味したシーツの開発	紺家 千津子	看護学部	¥50,000	補 委	(独) 日本学術振興会
働く人々のバーンアウトと循環器疾患リスクに関する縦断研究	森河 裕子	看護学部	¥200,000	補 委	(独) 日本学術振興会
リワーク（復職）につなげるうつ病者とうつ病者家族の支援プログラムの構築と評価	長谷川 雅美	看護学部	¥50,000	補 委	(独) 日本学術振興会

女性アルコール依存症者の死への転帰を予防するための断酒継続プログラムの開発	長谷川 雅美	看護学部	¥40,000	補 委	(独) 日本学術振興会
高齢者のスキンケア(皮膚裂傷)発生リスクの同定とテーラーメイドプロトコルの開発	紺家 千津子	看護学部	¥100,000	補 委	(独) 日本学術振興会
看護と介護のより良い連携に向けた教育デザイン-感染防御策に焦点を当てて-	橋本 智江	看護学部	¥200,000	補 委	(独) 日本学術振興会
COMT阻害剤投与により惹起される代謝異常全体像の把握	金崎 啓造	糖尿病・内分泌内科学	¥600,000	補 委	(独) 日本学術振興会
がん温熱療法の新規分子マーカー候補FAM107ファミリー蛋白質の発現・機能解析	元雄 良治	腫瘍内科学	¥50,000	補 委	(独) 日本学術振興会
がん患者とその子供への支援プログラムの開発-芸術療法とPILテストの導入の試み	北本 福美	精神神経科学	¥50,000	補 委	(独) 日本学術振興会
作業療法士のためのコミュニケーションスキル育成支援システムの開発	影近 謙治	リハビリテーション医学	¥100,000	補 委	(独) 日本学術振興会
生活習慣病の発症・進展における新規ターゲットとしてのToxic AGEs (TAGE)の関与とその阻止	竹内 正義	先端医療研究領域	¥4,650,000	補 委	文部科学省
地域・在宅高齢者における摂食嚥下・栄養障害に関する研究-特にそれが及ぼす在宅療養の非継続性と地域における介入・システム構築に向けて	森本 茂人	高齢医学	¥1,200,000	補 委	厚生労働省
重症好酸球性副鼻腔炎の診断基準作成と治療法確立に関する研究	三輪 高喜	耳鼻咽喉科学	¥600,000	補 委	厚生労働省
免疫性神経疾患に関する調査研究	大原 義朗	微生物学	¥1,200,000	補 委	厚生労働省
進行性腎障害に関する調査研究	横山 仁	腎臓内科学	¥3,500,000	補 委	厚生労働省
希少性難治性疾患-神経・筋難病疾患の進行抑制治療効果を得るための新たな医療機器、生体電位等で随意コントロールされた下肢装着型補助ロボット (HAL-HN01)に関する医師主導治験の実施研究	田中 恵子	神経内科学	¥800,000	補 委	厚生労働省
免疫性神経疾患に関する調査研究	松井 真	神経内科学	¥1,200,000	補 委	厚生労働省
特発性大腿骨頭壊死症の診断・治療・予防法の開発を目的とした全国学際的研究	松本 忠美	整形外科	¥1,080,000	補 委	厚生労働省
IgG4関連疾患に関する調査研究	友杉 直久	先端医療研究領域	¥1,200,000	補 委	厚生労働省
低線量胸部CTによる肺がん検診の有効性評価のための無作為化比較試験	佐川 元保 (研究代表者)	呼吸器外科学	¥14,154,000	補 委	厚生労働省
大規模コホート共同研究の発展による危険因子管理の優先順位の把握と個人リスク評価に関するエビデンスの構築	中川 秀昭	公衆衛生学	¥2,100,000	補 委	厚生労働省
特定健診・保健指導におけるマルチタスク環境での診断・管理のエビデンス創出に関する横断・縦断研究	中川 秀昭	公衆衛生学	¥1,100,000	補 委	厚生労働省
社会的要因を含む生活習慣病リスク要因の解明を目指した国民代表集団の大規模コホート研究: NIPPON DATA80/90/2010	中川 秀昭	公衆衛生学	¥500,000	補 委	厚生労働省

真菌感染症の病態解明及び検査・治療法の確立とサーベイランスに関する研究	望月 隆	皮膚科学	¥1,000,000	補 委	厚生労働省
新たな薬剤耐性機構の解明及び薬剤耐性菌のサーベイランスに関する研究	飯沼 由嗣	臨床感染症学	¥1,400,000	補 委	厚生労働省
慢性腎臓病の進行を促進する薬剤等による腎障害の早期診断法と治療法の開発	横山 仁	腎臓内科学	¥1,000,000	補 委	厚生労働省
高悪性度骨軟部腫瘍に対する標準治療確立のための研究	野島 孝之	臨床病理学	¥150,000	補 委	厚生労働省
精神疾患患者に対する早期介入とその普及啓発に関する研究	川崎 康弘	精神神経科学	¥400,000	補 委	厚生労働省
先天異常モニタリング解析による本邦の先天異常発生状況の推移とその影響要因（放射線被ばくの影響、出生前診断の影響等を含む）に関する研究	中川 秀昭	公衆衛生学	¥200,000	補 委	厚生労働省
大規模疫学調査による、認知症の発症促進因子および抑制因子の検索に関する研究	森本 茂人	高齢医学	¥3,000,000	補 委	厚生労働省
東京電力福島第一原子力発電所における緊急作業従事者の放射線被ばく量と水晶体混濁発症に関する調査	佐々木 洋 (研究代表者)	眼科学	¥3,925,000	補 委	厚生労働省
からだを透かして見てみようー透明人間できるかな？ー2013	八田 稔久	解剖学 I	¥450,000	補 委	(独) 日本学術振興会
長寿のメニューってできるんけ？2013～食品の「活性酸素」除去能力を測定しよう～	島田 ひろき	解剖学 I	¥450,000	補 委	(独) 日本学術振興会
人に病気をうつす虫(蚊)がどんな奴か観察してみよう	村上 学	生命科学研究領域	¥450,000	補 委	(独) 日本学術振興会
第12回日韓糖尿病性腎症セミナー	古家 大祐	糖尿病・内分泌内科学	¥1,200,000	補 委	(独) 日本学術振興会
眼部への電波ばく露の定量的調査に関する研究	佐々木 洋	環境原性視覚病態 研究部門	¥18,009,000	補 委	総務省
カドミウム汚染地域(神通川流域、梯川流域)住民の追跡研究ーカドミウム暴露に伴う生命予後と健康影響ー	中川 秀昭	公衆衛生学	¥5,000,000	補 委	日本エヌ・ユー・エス(株)(環境省)
自己組織再生型心血管デバイスの開発及び安全性・有効性評価のための技術開発	秋田 利明	心臓血管外科学	¥7,200,000	補 委	大阪大学((社)医薬品開発支援機構)
交感神経イメージングのための総合評価システムの開発	奥田 光一	一般教育機構	¥770,000	補 委	(独) 科学技術振興機構
母体血液画像データからの胎児由来有核赤血球(NRBC)検出技術	高林 晴夫	FDD-MBセンター	¥3,196,000	補 委	(独) 科学技術振興機構
投薬及び栄養管理のための体表面積測定システムの開発	古家 大祐	糖尿病・内分泌内科学	¥283,000	補 委	(株)COM-ONE(経済産業省)
心不全患者の心拡大(=心臓リモデリング)防止心臓サポートネットの開発・改良	秋田 利明	心臓血管外科学	¥4,103,000	補 委	特定非営利活動法人バイオものづくり中部(経済産業省)
動脈硬化の予防&改善効果を有する機能性食品の開発	友杉 直久	先端医療研究領域	¥2,910,000	補 委	ゼライス株式会社(経済産業省)

脂肪肝と血清GGT高値は粥状硬化の危険因子か	利國 信行	肝胆膵内科	¥800,000	補 委	(財)聖肋・ライフサイエンス研究所
小胞体分子シャペロン誘導を介した糖尿病腎症の治療	乙田 敏城	糖尿病・内分泌内科学	¥2,000,000	補 委	(財)上原記念生命科学財団
頻脈誘発性心筋症の新規病態診断法の開発：酸化ストレス反応物質とスペクトロラッキング・PET複合評価	藤林 幸輔	循環器内科学	¥2,000,000	補 委	(財)福田記念医療技術振興財団
動脈硬化の発症と進展に関与する新規メカニズムの探索と治療法開発	梶波 康二	循環器内科学	¥9,000,000	補 委	(財)車両競技公益資金記念財団
摂食抑制が血圧上昇とエネルギー消費促進を起こす仕組みの解明	谷田 守	生理学Ⅱ	¥2,000,000	補 委	(財)武田科学振興財団
GLP-1の惹起する迷走神経シグナルが膵β細胞の機能と形態に与える効果の解明	西澤 誠	糖尿病・内分泌内科学	¥1,000,000	補 委	(財)日本糖尿病財団
臓器線維化を止める	金崎 啓造	糖尿病・内分泌内科学	¥2,000,000	補 委	(財)武田科学振興財団
光技術を応用した生理的セロトニンニューロン活動による扁桃体調節作用の解析	山本 亮	生理学Ⅰ	¥1,000,000	補 委	(公財)カシオ科学振興財団
後発白内障の発症における抗酸化蛋白ペルオキシレドキシシン6の抑制効果の検討	久保 江理	眼科学	¥2,000,000	補 委	参天製薬創業者記念会
COMT不全のもたらず代謝異常の統合的理解と治療戦略の開発	金崎 啓造	糖尿病・内分泌内科学	¥1,000,000	補 委	(公財)鈴木謙三記念医学応用研究財団
Serotonergic modulation on resting membrane potential of lateral amygdala neuron (扁桃体外側核ニューロン静止膜電位のセロトニンによる調節)	山本 亮	生理学Ⅰ	¥225,000	補 委	(公財)日本科学協会
磁気共鳴画像を用いた統合失調症患者にみられる上側頭回形態異常の多面的評価	川崎 康弘	精神神経科学	¥500,000	補 委	統合失調症研究会
抗肥満と抗糖尿病克服を目指したマウス自律神経活動計測の確立	谷田 守	生理学Ⅱ	¥1,000,000	補 委	(一財)糧食研究会
Honor Society of Nursing, Sigma Theta Tau International 24th International Nursing Research Congress	田村 幸子	看護学部	¥458,000	補 委	(公財)政策医療振興財団
センチネルリンパ節転移陰性粘膜下層浸潤胃癌に対する腹腔鏡補助下内視鏡的胃全層切除術の検討 - 粘膜下層浸潤胃癌に対する新たな術式への取り組み -	伊藤 透	消化器内視鏡学	¥1,000,000	補 委	(財)北國がん研究振興財団
喫煙患者における肺癌発生と気腫化病変における癌抑制遺伝子p53の関与について	水野 史朗	呼吸器内科学	¥1,000,000	補 委	(財)北國がん研究振興財団
GSK3βを標的治療とした既存医薬品による膵がんの新規治療	島崎 猛夫	先端医療研究領域	¥1,000,000	補 委	(財)北國がん研究振興財団

計 195

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを入記すること。

(注) 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を入記すること。

(注) 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印を付けた上で、補助元又は委託元を入記すること。



(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	M. Sakurai	公衆衛生学	for the NIPPON DATA 90 Research Group, HbA1c and the risks for all-cause and cardiovascular mortality in the general Japanese population: NIPPON DATA90., Diabetes Care., 36:3759-3765, 2013	Diabetes Care.
2	K. Kanasaki	糖尿病・内分泌内科学	Loss of $\beta 1$ -integrin from urothelium results in overactive bladder and incontinence in mice: a mechanosensory rather than structural phenotype., FASEB J., 27:1950-1961, 2013	FASEB J.
3	E. Kubo	眼科学	DP. Singh, Elevated tropomyosin expression is associated with epithelial-mesenchymal transition of lens epithelial cells., J. Cell. Mol. Med., 17:212-221, 2013	J. Cell. Mol. Med.
4	E. Kubo	眼科学	DP. Singh, Dynamic and differential regulation in the microRNA expression in the developing and mature cataractous rat lens., J. Cell. Mol. Med., 17:1146-1159, 2013	J. Cell. Mol. Med.
5	M. Nishizawa	糖尿病・内分泌内科学	Intraportal GLP-1 stimulates insulin secretion predominantly through the hepatoportal-pancreatic vagal reflex pathways., Am. J. Physiol. Endocrinol. Metab., 305:E376-E387, 2013	Am. J. Physiol. Endocrinol. Metab.
6	K. Usuda	呼吸器外科学	Advantage of diffusion-weighted imaging over positron emission tomography-computed in assessment of hilar and mediastinal lymph node in lung cancer., Ann. Surg. Oncol., 20:1676-1683, 2013	Ann. Surg. Oncol.
7	K. Nakamura	公衆衛生学	Treated and untreated hypertension, hospitalization, and medical expenditure: an epidemiological study in 314 622 beneficiaries of the medical insurance system in Japan., J. Hypertens., 31:1032-	J. Hypertens.
8	T. Arisawa	消化器内科学	Genetic polymorphisms of SCN10A are associated with functional dyspepsia in Japanese subjects., J. Gastroenterol., 48:73-80, 2013	J. Gastroenterol.
9	H. Shiga	耳鼻咽喉科学	Assessment of olfactory nerve by SPECT-MRI image with nasal thallium-201 administration in patients with olfactory impairments in comparison to healthy volunteers., PLoS ONE, 8:e57671;1-8, 2013	PLoS ONE
10	N. Hayashi	肝胆膵内科	Acetaldehyde-derived advanced glycation end-products promote alcoholic liver disease., PLoS ONE, 8:e70034;1-14, 2013	PLoS ONE
11	K. Nakamura	公衆衛生学	Nicotine dependence and cost-effectiveness of individualized support for smoking cessation: evidence from practice at a worksite in Japan., PLoS ONE, 8:e55836;1-9, 2013	PLoS ONE

12	Y. Fujimoto	呼吸器内科学	A three-microphone acoustic reflection technique using transmitted acoustic waves in the airway, <i>J. Appl. Physiol.</i> , 115:1119-1125, 2013	<i>J. Appl. Physiol.</i>
13	N. Hayashi	肝胆膵内科	Irsogladine maleate for the treatment of recurrent aphthous stomatitis in hepatitis C virus patients on pegylated-interferon and ribavirin: a pilot study., <i>J. Gastroenterol. Hepatol.</i> , 28:1015-1018,	<i>J. Gastroenterol. Hepatol.</i>
14	K. Takeda	循環器内科学	Chk1-mediated phosphorylation of receptor-associated late transducer at serine 250 increases its stability by stimulating its interaction with 14-3-3., <i>Genes Cells</i> , 18:369-386, 2013	<i>Genes Cells</i>
15	Y. Sasagawa	脳神経外科学	Internal carotid arterial shift after transsphenoidal surgery in pituitary adenomas with cavernous sinus invasion., <i>Pituitary.</i> , 16:465-70, 2013	<i>Pituitary.</i>
16	I. Toyota	放射線医学	MRI Reveals edema in larynx (But not in brain) during anaphylactic hypotension in anesthetized rats., <i>Allergy Asthma Immunol Res.</i> , 5:389-396, 2013	<i>Allergy Asthma Immunol Res.</i>
17	R. Hayashi	消化器内科学	Influence of IL17A polymorphisms (rs2275913 and rs3748067) on the susceptibility to ulcerative colitis, <i>Clin. Exp. Med.</i> , 13:239-244, 2013	<i>Clin. Exp. Med.</i>
18	Y. Niida	先端医療研究領域	Mutational analysis of TSC1 and TSC2 in Japanese patients with tuberous sclerosis complex revealed higher incidence of TSC1 patients than previously reported., <i>J. Hum. Genet.</i> , 58:216-225, 2013	<i>J. Hum. Genet.</i>
19	T. Arisawa	消化器内科学	Functional promoter polymorphisms of NFKB1 influence susceptibility to the diffuse type of gastric cancer., <i>Oncol. Rep.</i> , 30:3013-3019, 2013	<i>Oncol. Rep.</i>
20	M. Tsuchishima	肝胆膵内科	Chronic ingestion of ethanol induces hepatocellular carcinoma in mice without additional hepatic insult., <i>Dig. Dis. Sci.</i> , 58:1923-1933, 2013	<i>Dig. Dis. Sci.</i>
21	N. Toshikuni	消化器内科学	Comparison of the relationships of alcoholic and nonalcoholic fatty liver with hypertension, diabetes mellitus, and dyslipidemia., <i>J. Clin. Biochem. Nutr.</i> , 52:82-88, 2013	<i>J. Clin. Biochem. Nutr.</i>
22	K. Fukui	整形外科	Wear comparison between conventional and highly cross-linked polyethylene against a zirconia head: a concise follow-up, at an average 10 years, of a previous report., <i>J. Arthroplasty.</i> , 28:1654-1658,	<i>J. Arthroplasty.</i>
23	A. Kaneuji	整形外科	Cementless anatomic total hip femoral component with circumferential porous coating for hips with developmental dysplasia: a minimum ten-year follow-up period., <i>J. Arthroplasty.</i> , 28:1746-1750,	<i>J. Arthroplasty.</i>
24	Y. Morikawa	医科学	Correlation between shift-work-related sleep problems and heavy drinking in Japanese male factory workers., <i>Alcohol Alcohol.</i> , 48:202-206, 2013	<i>Alcohol Alcohol.</i>

25	M. Sakurai	公衆衛生学	Family history of diabetes, lifestyle factors, and the 7-year incident risk of type 2 diabetes mellitus in middle-aged Japanese men and women., J Diabetes Investig, 4:261-268, 2013	J Diabetes Investig
26	T. Mochizuki	皮膚科学	Simple identification of <i>Trichophyton tonsurans</i> by chlamyospore-like structures produced in culture media., J. Dermatol., 40:1027-1032, 2013	J. Dermatol.
27	N. Toshikuni	消化器内科学	Advanced ultrasonography technologies to assess the effects of radiofrequency ablation on hepatocellular carcinoma., Radiol Oncol., 47:224-229, 2013	Radiol Oncol.
28	S. Shinomiya	呼吸器内科学	Nitric oxide and $\beta$ 2-adrenoceptor activation attenuate pulmonary vasoconstriction during anaphylactic hypotension in anesthetized BALB/c mice., Exp. Lung Res., 39:119-129, 2013	Exp. Lung Res.
29	H. Aoki	循環器内科学	Myocardial sympathetic innervation, function, and oxidative metabolism in non-infarcted myocardium in patients with prior myocardial infarction, Ann. Nucl. Med., 27:523-531, 2013	Ann. Nucl. Med.
30	M. Doai	放射線医学	Sensitive immunodetection of radiotoxicity after iodine-131therapy for thyroid cancer using $\gamma$ -H2AX foci of DNA damage in lymphocytes., Ann. Nucl. Med., 27:233-238, 2013	Ann. Nucl. Med.
31	Y. Ohno	一般・消化器外科学	Nipple- or skin-sparing mastectomy and immediate breast reconstruction by the "moving window" operation, Breast Cancer., 20:54-61, 2013	Breast Cancer.
32	M. Kitadate	放射線医学	Portal venular constriction during anaphylactic shock in anesthetized rats., Biomed. Res., 34:61-68, 2013	Biomed. Res.
33	M. Ishizaki	衛生学	The Work Stress and Health Cohort Study Group, A prospective study of psychosocial work characteristics and long sick leave of Japanese male employees in multiple workplaces., Ind.	Ind. Health
34	S. Nishiike	麻醉科学	Relationship between vascular reactivity and expression of HMGB1 in a rat model of septic aorta., J. Anesth., 27:684-692, 2013	J. Anesth.
35	K. Usuda	呼吸器外科学	Diffusion-weighted imaging(DWI) signal intensity and distribution represent the amount of cancer cells and their distribution in primary lung cancer., Clin. Imaging, 37:265-272, 2013	Clin. Imaging
36	K. Fukui	整形外科	How far above the true anatomic position can the acetabular cup be placed in total hip arthroplasty?, Hip Int., 23:129-134, 2013	Hip Int.
37	M. Sagwa	呼吸器外科学	A randomized phase III trial of postoperative adjuvant therapy for completely resected stage IA-III A lung cancer using an anti-angiogenetic agent: irsogladine maleate., Minerva Chir, 68:587-597, 2013	Minerva Chir

38	Y. Noborisaka	衛生学	Distribution of and factors contributing to chronic kidney disease in a middle-aged working population., Environ. Health Prevent. Med., 18 : 466-476, 2013	Environ. Health Prevent. Med.
39	M. Kitada	糖尿病・内分泌内科学	Calorie restriction in overweight males ameliorates obesity-related metabolic alterations and cellular adaptations through anti-aging effects, possibly including AMPK and SIRT1 activation., Biochim. Biophys. Acta., 1830:4820-4827, 2013	Biochim. Biophys. Acta.
40	N. Nakaya	腫瘍内科学	Meaning of tumor protein 53-induced nuclear protein 1 in the molecular mechanism of gemcitabine sensitivity., Mol Clin Oncol., 1:100-104, 2013	Mol Clin Oncol.
41	M. Fukuda	眼科学	Safety comparison of additives in antiglaucoma prostaglandin (PG) analog ophthalmic formulations., Clin. Ophthalmol., 7:515-520, 2013	Clin. Ophthalmol.
42	A. Kaneuji	整形外科	Continuous movement of stems and cement in both polished and rough tapered femoral stems in a biomechanical model., GJMR, 13:9-16, 2013	GJMR
43	Y. Noborisaka	衛生学	The effects of continuing and discontinuing smoking on the development of chronic kidney disease (CKD) in the healthy middle-aged working population in Japan., Environ. Health Prevent. Med., 18 : 24-32, 2013	Environ. Health Prevent. Med.
44	M. Nishiho	公衆衛生学	Dioxin concentration in breast milk of primipara mothers in Bien Hoa, a hot spot area in Vietnam —A preliminary study in 2012—., Organohalogen Compounds., 75:1167-1170, 2013	Organohalogen Compounds.
45	Y. Noborisaka	衛生学	Elevated serum gamma-glutamyltransferase (GGT) activity and the development of chronic kidney disease (CKD) in cigarette smokers., Nephrourol Mon, 5:967-973, 2013	Nephrourol Mon
46	M. Kitada	糖尿病・内分泌内科学	Sirtuins as possible drug targets in type 2 diabetes., Curr. Drug Targets, 14:622-636, 2013	Curr. Drug Targets
47	K. Kanasaki	糖尿病・内分泌内科学	The biological consequence of obesity on the kidney., Nephrol. Dial. Transplant., 28suppl 4:1-7, 2013	Nephrol. Dial. Transplant.
48	D. Koya	糖尿病・内分泌内科学	Statin use in patients with diabetes and kidney disease: the Japanese experience., J. Atheroscler. Thromb., 20:407-424, 2013	J. Atheroscler. Thromb.
49	J. Yamakawa	総合内科学	Significance of kampo, japanese traditional medicine, in the treatment of obesity:basic and clinical evidence., Evid Based Complement Alternat Med, 2013,943075:1-8, 2013	Evid Based Complement Alternat Med
50	J. Yamakawa	総合内科学	Role of Kampo medicine in integrative cancer therapy., Evid Based Complement Alternat Med, 2013:570848:1-6, 2013	Evid Based Complement Alternat Med

51	J. Yamakawa	総合内科学	Significance of Kampo, traditional Japanese medicine, in supportive care of cancer patients., <i>Evid Based Complement Alternat Med</i> , 2013, 746486:1-10, 2013	<i>Evid Based Complement Alternat Med</i>
52	M. Noguchi	一般・消化器外科学	The changing role of axillary lymph node dissection for breast cancer., <i>Breast Cancer.</i> , 20:41-46, 2013	<i>Breast Cancer.</i>
53	Y. Noborisaka	衛生学	Smoking and chronic kidney disease in healthy populations, <i>Nephrourol Mon</i> , 5:655-667, 2013	<i>Nephrourol Mon</i>
54	K. Kanasaki	糖尿病・内分泌内科学	Angiogenic defects in preeclampsia: what is known, and how are such defects relevant to preeclampsia pathogenesis?, <i>Hypertens. res. pregnancy</i> , 1:57-65, 2013	<i>Hypertens. res. Pregnancy</i>
55	M. Kitada	糖尿病・内分泌内科学	Renal protective effects of resveratrol., <i>Oxid. Med. Cell. Longev.</i> , 2013:568093:1-7, 2013	<i>Oxid. Med. Cell. Longev.</i>
56	M. Kitada	糖尿病・内分泌内科学	SIRT1 in type 2 diabetes: mechanisms and therapeutic potential., <i>Diabetes Metab J</i> , 37:315-325, 2013	<i>Diabetes Metab J</i>
57	M. Kitada	糖尿病・内分泌内科学	Sirtuins and renal diseases: relationship with aging and diabetic nephropathy., <i>Clin. Sci.</i> , 124:153-164, 2013	<i>Clin. Sci.</i>
58	K. Kanasaki	糖尿病・内分泌内科学	Diabetic nephropathy: the role of inflammation in fibroblast activation and kidney fibrosis., <i>Front Endocrinol (Lausanne)</i> , 4:1-15, 2013	<i>Front Endocrinol (Lausanne)</i>
59	M. Nakamura	消化器内科学	A new attachment hood (Nanoshoooter) for transnasal endoscopic submucosal dissection of the hypopharynx., <i>Endoscopy</i> , 45:E387-388, 2013	<i>Endoscopy</i>
60	K. Kanasaki	糖尿病・内分泌内科学	Three ileus cases associated with the use of dipeptidyl peptidase-4 inhibitors in diabetic patients., <i>J Diabetes Investig</i> , 4:673-675, 2013	<i>J Diabetes Investig</i>
61	M. Hasei	皮膚科学	Case of phaeohyphomycosis producing sporotrichoid lesions., <i>J. Dermatol.</i> , 40:638-640, 2013	<i>J. Dermatol.</i>
62	N. Demura	顎口腔外科学	Bilateral craniofacial microsomia: orthognathic treatment for an advanced dentofacial deformity, <i>Am J Orthod Dentofacial Orthop</i> , 143:404-411, 2013	<i>Am J Orthod Dentofacial Orthop</i>
63	Y. Yasui	小児外科学	Laryngotracheal separation for a type 4 laryngotracheoesophageal cleft with multiple significant malformations., <i>J. Pediatr. Surg.</i> , 1:277-280, 2013	<i>J. Pediatr. Surg.</i>

64	Y. Yasui	小児外科学	Retroperitoneoscopic resection of a congenital adrenal teratoma in an infant., J. Pediatr. Surg., 1:391-394, 2013	J. Pediatr. Surg.
65	H. Okuyama	腎臓内科学	A patient with persistent renal AL amyloid deposition after clinical remission by HDM/SCT therapy., Clin. Nephrol., 79:233-236, 2013	Clin. Nephrol.
66	Y. Sasagawa	脳神経外科学	Undifferentiated sarcoma of the cavernous sinus after gamma knife radiosurgery for pituitary adenoma., J. Clin. Neurosci., 20:1152-1154, 2013	J. Clin. Neurosci.
67	Y. Sasagawa	脳神経外科学	Oncocytic meningioma presenting with intratumoral hemorrhage., J. Clin. Neurosci., 20:1622-1624, 2013	J. Clin. Neurosci.
68	S. Nagayama	神経内科学	Progressive multifocal leukoencephalopathy developed 26 years after renal transplantation., Clin. Neurol. Neurosurg., 115:1482-1484, 2013	Clin. Neurol. Neurosurg.
69	Y. Machida	呼吸器外科学	Video-assisted thoracic surgery for spontaneous pneumothorax using a SILS port, A case report, 金医大誌, 38:150-152, 2013	金医大誌
70	Y. Masaki	血液免疫内科学	Japanese variant of multicentric castlemans disease associated with serositis and thrombocytopenia—a report of two cases: Is TAFRO syndrome(Castlemans-Kojima Disease) a distinct clinicopathological entity?, J. Clin. Exp. Hematop., 53:79-85, 2013	J. Clin. Exp. Hematop.
71	K. Fukui	整形外科	Synovial osteochondromatosis of the hip with femoroacetabular impingement and osteoarthritis: a case report., J. Orthop. Surg. (Hong Kong), 21:117-121, 2013	J. Orthop. Surg. (Hong Kong)
72	K. Fukui	整形外科	Localized pigmented villonodular synovitis of the hip: sudden-onset pain caused by torsion of the tumor pedicle., Case Rep Orthop., 2013:862935;1-4, 2013	Case Rep Orthop.

計 72

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- (注) 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- (注) 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- (注) 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。
- (注) 5 平成二十六年中での業務報告において当該実績が七十件未満の場合には、平成二十六年度の改正前の基準による実績についても報告すること。

(2) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				

2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

(注) 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

(注) 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容	
・ 金沢医科大学における医薬品等臨床研究倫理審査委員会規定 ・ 金沢医科大学臨床研究に関する倫理規定 ・ 金沢医科大学疫学研究に関する規定、及び「金沢医科大学疫学研究倫理審査委員会運営要項」 ・ 金沢医科大学ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する規定 ・ 金沢医科大学病院における病院研究倫理審査委員会規定	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 12 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

(注) 2 「③倫理審査委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとすること）。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容	
産学官連携活動における利益相反を適正に管理することを目的とし、教職員等に対し、臨床研究等を開始する前、厚生労働科学研究費補助金の交付申請書の提出前等に、利益相反自己申告書を提出することを義務付けている。申告書が提出されると、利益相反マネジメント委員会にて、利益相反に関する情報収集、分析、検討、審査が行われ、評価・報告がなされる。また、必要に応じて、モニタリングを行い、研究者が適正な臨床研究等を実施することができるよう利益相反のマネジメントを行うこととしている。	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 2 回

(注) 「③利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとすること）。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 2 回 予定
・ 研修の主な内容	
・ H26. 11月 予定 倫理審査委員会申請手続きの方法及び倫理指針について ・ H26. 2月 予定 治験・臨床研究の進め方-倫理・品質管理・科学的妥協性-	

(注) 「①臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において実施実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとすること）。



## 高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

## 1 研修の内容

本院の後期臨床研修では、総合診療医（家庭医）、専門医など個々が目指すキャリアに柔軟に対応するプログラムを準備している。医師として本院で働きながら大学院への進学も可能であり、海外留学についても積極的に支援を行っている。2年間の初期臨床研修で修得した知識と技術を基礎に、各診療科に関連した学会の認定医・専門医・指導医の資格を取得した教授、准教授、講師などの強力な指導体制のもと、さらに高度な医療を身につけることを目指している。

具体的には、各診療科毎に独自の研修プログラムを組んでおり、内科系・外科系で研修期間は異なる。各診療科における研修内容及び到達目標は、認定医・専門医・指導医の取得である。本院で取得可能な認定医・専門医・指導医の種類は96種類にもものぼり、高い専門性からジェネラルフィジシャン（総合診療医）の知識・技能の習得まで、あらゆる将来の選択が可能である。後期臨床研修においてもローテート枠を設けており、また、専門科間、職種間のカンファレンスが日常的に行われている。

各診療科における①後期臨床研修プログラムの目的、②後期臨床研修プログラム修了後のコース、③時間割、研修内容と到達目標、④取得できる認定医、専門医（必要な期間）資格とその取得にかかわる概要、⑤週間スケジュール等の詳細については、本院臨床研修センターが作成する「金沢医科大学病院臨床研修プログラム」（職臨床研修医・後期臨床研修医）の冊子に示している。

なお、大学院への進学については、平成24年度から初期臨床研修医2年次からの大学院進学が可能となり、後期臨床研修医採用の魅力となっている。

## 2 研修の実績

研修医の人数	72	人
--------	----	---

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

## 3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
梶波 康二	循環器内科	診療科長	30年	
北山 道彦	心血管カテーテル治療科	診療科長	31年	
秋田 利明	心臓外科	診療科長	33年	
四方 裕夫	血管外科	診療科長	32年	
梅 博久	呼吸器内科	診療科長	33年	
佐川 元保	呼吸器外科	医局長	33年	
有沢 富康	消化器内科	診療科長	31年	
堤 幹宏	肝胆膵内科	診療科長	32年	
伊藤 透	内視鏡科	診療科長	30年	
小坂 健夫	一般・消化器外科	診療科長	34年	
野口 昌邦	乳腺・内分泌外科	診療科長	37年	
横山 仁	腎臓内科	診療科長	33年	
宮澤 克人	泌尿器科	診療科長	30年	
古家 大祐	内分泌・代謝科	診療科長	31年	
正木 康史	血液・リウマチ膠原病科	診療科長	24年	
松井 真	神経内科	診療科長	33年	
飯塚 秀明	脳神経外科	診療科長	34年	
森本 茂人	高齢医学科	診療科長	36年	
犀川 太	小児科	診療科長	26年	
河野 美幸	小児外科	診療科長	32年	
川崎 康弘	神経科精神科	診療科長	29年	
川崎 康弘	心身医学科	診療科長	29年	
利波 久雄	放射線科	診療科長	35年	
的場 宗孝	放射線治療科	診療科長	20年	
川原 範夫	整形外科	診療科長	31年	
川上 重彦	形成外科	診療科長	36年	
佐々木 洋	眼科	診療科長	27年	
三輪 高喜	耳鼻咽喉科	診療科長	31年	
辻 裕之	頭頸部・甲状腺外科	診療科長	33年	
望月 隆	皮膚科	診療科長	32年	
牧野田 知	産科婦人科	診療科長	39年	
土田 英昭	麻酔科	診療科長	35年	
影近 謙治	リハビリテーション医学科	診療科長	27年	
和藤 幸弘	救命救急科	診療科長	31年	
湊 宏	病理診断科	診療科長	24年	
飯沼 由嗣	感染症科	診療科長	26年	
瀬上 夏樹	歯科口腔科	診療科長	35年	
浅地 孝能	健康管理センター	センター長	30年	
元雄 良治	集学的がん治療センター	センター長	34年	
小林 淳二	総合診療センター	センター長	27年	
			年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

- ・研修の主な内容
  
- ・研修の期間・実施回数
  
- ・研修の参加人数

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

- ・研修の主な内容
  
- ・研修の期間・実施回数
  
- ・研修の参加人数

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

- ・研修の主な内容
  
- ・研修の期間・実施回数
  
- ・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。なお、平成二十六年度中の業務報告においては、平成二十六年四月以降の実績（計画）を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかにすること）。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 2. 現状
管理責任者氏名	病院長 松本 忠美
管理担当者氏名	病院事務部事務長 山下 和夫

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		病院管理課 薬剤部 看護部 中央放射線部 医療情報部 医事課	【診療録】 患者登録は初回来院時の登録番号（7桁）を基準として、1患者1番号で生涯有効性を採用し、1患者の入院と外来の全病歴を電子媒体により保存・管理している。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	病院職員課	/
	高度の医療の提供の実績	医事課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事課	
	高度の医療の研修の実績	病院職員課	
	閲覧実績	病院管理課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	地域医療連携事務課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	病院管理課、薬剤部	
第規 一則 号第 一 に 掲 げ る 十 一 体 制 第 一 確 項 保 各 の 号 状 及 び 第 九 条 の 二 十 第 一 項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全部（医療安全管理室）	/
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全部（医療安全管理室）	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全部（医療安全管理室）	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全部（医療安全管理室）	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全部（医療安全管理室）	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医療安全部（感染制御室）	
	医療に係る安全管理を行う部門の配置状況	医療安全部（医療安全管理室）	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全部（医療安全管理室）	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一一条の十一	院内感染のための指針の策定状況	医療安全部（感染制御室）
	第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染対策のための委員会の開催状況	医療安全部（感染制御室）
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医療安全部（感染制御室）
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全部（感染制御室）
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	ME部
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME部
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME部
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ME部		

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 ② 現状
閲覧責任者氏名	医療情報部長 堀 有行 (診療記録)
閲覧担当者氏名	情報管理課長 山野 清一 (診療記録)
閲覧の求めに応じる場所	病院情報管理課事務室内
閲覧の手続の概要	
<p>診療録の貸出しは、貸出日の前日までに貸出依頼票を提出し、医療情報部長の許可を受けて行ないます。貸出期間は2日以内ですが、死亡患者については7日以内となっています。</p> <p>当該患者の診療のため診療録が必要となった場合を除き診療録の閲覧場所は情報管理課事務室内で行ないます。診療録の利用に当たり、管理場所以外へ診療録を移動すること、また利用者間で診療録をまた貸しすることは「診療録貸出規程」にて禁止事項となっております。</p>	

既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第6)

規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項第1号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有 ・ 無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>医療事故防止に関する安全管理体制の指針（以下「指針」という。）は、医療事故防止に関する安全管理体制、安全管理体制に関する関係規程及び医療事故防止に関する共通及び部門マニュアルの3部構成をとっている。</p> <p>指針は、医療事故防止に関する病院の方針、用語の定義、医療事故の防止体制、医療事故発生時の対応、インシデントレポートに関する基本事項、医療事故防止規程・マニュアルの整備、医療事故防止に関する職員の研修、患者暴力行為への対応、安全管理体制に関する組織図等、医療事故報告書様式など医療事故防止に係る基本的事項を収載している。</p>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 24 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>*医療安全対策小委員会：月1回開催（第3水曜日） 医療安全対策小委員会は医療安全管理室長を委員長に配し、医療安全管理者、内科系・外科系・小児科・麻酔科医師、看護師、薬剤師、医療技術職員及び事務職員の19名で構成され、医療安全管理者が決めたテーマや各部門に共通するようなインシデント事例を抽出して事例検討を行う。小委員会では、インシデントに至る状況、要因、影響等について、徹底的に分析・検討し、改善策や再発防止対策を洗い出す。また、その結果を医療安全対策委員会に小委員会からの事例報告として報告・提案・注意喚起するとともに、システムの改善で防止できるものであれば担当部署に委員会として改善を要望する。</p> <p>*医療安全対策委員会：月1回開催（第4火曜日） 医療安全対策委員会は各部門・各部署の部門リスクマネージャー（病棟医長、部長、看護師長、技師長、課長相当職）72名で構成されている。インシデント情報の収集結果、状況別・原因別集計表及び医療安全対策小委員会から報告されるインシデント事例の分析・検討結果及び改善策、医療問題検討委員会で検討された医療事故に関してそれぞれの部門・部署に周知すると共に情報を共有し、事故の防止に努める。さらに、診療科、病棟、薬剤部、ME部他関連する部署のスタッフが、それぞれの部署でのインシデント事例について、それぞれの職種の立場を超えて分析・検討するインシデント分析検討会を定期的に行っており、その内容について毎回2グループづつ代表者が報告する。他に指針・マニュアルの改正、医療安全院内ラウンド、全体職員・リスクマネージャー研修会、医療安全アンケート、その他医療安全に係る事項についての審議・結果報告を行う。</p> <p>委員会の議事録及び資料は、各委員及び全リスクマネージャーに配付し、所属職員全員に周知するよう回覧を行い、読んだ者はサインするようにしている。他に、電子カルテ上とイントラネット「病院職員のページ」にも委員会の議事録を掲載している。</p>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 2 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>特定機能病院としての医療安全管理体制を確保するための職員研修会（第1回目） 開催日 平成25年8月30日（金） テーマ 医療の安全とチーム医療 講師 寺崎 仁 先生（横浜市立大学附属市民総合医療センター 准教授・安全管理指導者）</p> <p>特定機能病院としての医療安全管理体制を確保するための職員研修会（第2回目） 開催日 平成26年2月6日（木）</p>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備 （有） ・ 無 ）</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p>	
<p>院内で起こった医療事故は、速やかに病院長まで報告されると共に医療安全管理者が現場へ出向き、情報収集を行う。院内で発生した事故事例については、月2回開催される医療問題検討委員会で全事例の協議・対応を図ると共に、更に調査・検討が必要な医療事故に対して、医療事故調査委員会の開催要否の審議を行っている。医療事故調査委員会では、関係者から詳細な事故状況の報告を求め、それに関する質問と討論から背景、要因、問題点を洗い出して分析・検討をしている。重大事例や情報を共有して再発防止に役立つ事例は、医療安全対策委員会で報告を行って職員に周知する他、外部機関である日本医療機能評価機構へ報告を行う。</p>	

⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	① ( 1 名) ・ 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	① ( 4 名) ・ 無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	① ・ 無
<p>・ 所属職員： 専任 ( 6 ) 名 兼任 ( 8 ) 名</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療安全対策委員会、医療安全対策小委員会及び事故調査委員会、医療問題検討委員会で用いられる資料及び議事録の作成及び保存、その他医療安全対策委員会の庶務に関すること。</li> <li>・ 医療事故等に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。</li> <li>・ 患者や家族への説明など事故発生時の対応状況について確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。</li> <li>・ 事故等の原因究明が適切に実施されていることを確認するとともに、必要な指導を行うこと。</li> <li>・ 医療安全に係る連絡調整に関すること。</li> <li>・ 診療情報提供に関すること。</li> <li>・ 医療安全相談に関すること。</li> <li>・ その他医療安全対策の推進に関すること。(病院全職員を対象とするもの、特定の部署の職員を対象とするもの等の職員研修の計画・立案・実施等)</li> <li>・ 暴力行為発生時の対応に関すること。</li> </ul>	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	① ・ 無

## 院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の整備状況	有・無		
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>院内感染に対策に関する基本的な考え方</li> <li>院内感染対策のための委員会およびその他組織に関する基本事項</li> <li>院内感染対策のための職員等に対する研修に関する基本方針</li> <li>感染症の発生状況の報告に関する基本事項</li> <li>院内感染発生時の対応に関する基本事項</li> <li>患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針</li> <li>その他院内感染対策推進のために必要な基本方針</li> </ol>			
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回		
<p>・ 活動の主な内容：</p> <table border="0"> <tr> <td data-bbox="133 715 1040 912"> <ol style="list-style-type: none"> <li>感染管理組織とシステムの構築</li> <li>院内感染サーベイランス</li> <li>感染に対するコンサルテーション</li> <li>感染管理教育</li> <li>職業感染防止</li> <li>感染管理技術：マニュアル作成・改訂</li> <li>ファシリティ・マネジメント</li> </ol> </td> <td data-bbox="1040 715 1511 912"> <p>【委員会の開催】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>月1回年間12回の定例開催</li> <li>委員数30名</li> <li>年度平均出席率 74.4%</li> </ol> </td> </tr> </table>		<ol style="list-style-type: none"> <li>感染管理組織とシステムの構築</li> <li>院内感染サーベイランス</li> <li>感染に対するコンサルテーション</li> <li>感染管理教育</li> <li>職業感染防止</li> <li>感染管理技術：マニュアル作成・改訂</li> <li>ファシリティ・マネジメント</li> </ol>	<p>【委員会の開催】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>月1回年間12回の定例開催</li> <li>委員数30名</li> <li>年度平均出席率 74.4%</li> </ol>
<ol style="list-style-type: none"> <li>感染管理組織とシステムの構築</li> <li>院内感染サーベイランス</li> <li>感染に対するコンサルテーション</li> <li>感染管理教育</li> <li>職業感染防止</li> <li>感染管理技術：マニュアル作成・改訂</li> <li>ファシリティ・マネジメント</li> </ol>	<p>【委員会の開催】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>月1回年間12回の定例開催</li> <li>委員数30名</li> <li>年度平均出席率 74.4%</li> </ol>		
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 12 回		
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>【全職員対象】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>「当院における院内感染対策の課題と対応」 開催日時：平成25年6月11日（火） 講師：1. いつやるの？今でしょ！感染対策 野田洋子 医療安全部感染制御室課長（感染管理認定看護師） 2. 適切な感染症診療を目指して 馬場尚志 臨床感染症学准教授 医療安全部感染制御室副室長</li> <li>「感染対策を見直す」 開催日時：平成26年度2月28日（金） 講師：藤田 直久先生 京都府立医科大学 感染制御検査医学教授 同附属病院臨床検査部・感染対策部部长</li> </ol> <p>【新採用者対象】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>全員「新入職員オリエンテーション」 開催日時：平成25年4月2日</li> <li>コメディカル対象 開催日時：平成25年4月2日</li> <li>研修医対象 開催日時：平成25年4月8日</li> <li>新人看護職員研修 開催日時：平成25年4月4日（他4月5日、6日、11日、6月28日、7月29日）</li> </ol> <p>【その他】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>リンク委員対象 開催日時：平成25年12月2日「ノロウイルスについて」</li> <li>看護部 1年次研修 開催日時：平成25年6月13日（他 9月11日）</li> <li>看護部 2年次研修 開催日時：平成25年8月13日（他 9月17日）</li> <li>看護部 看護補助員研修 開催日時：平成25年7月30日、31日「手指衛生、日常業務に潜む感染リスクについて」</li> <li>中央臨床検査部 検査技師 開催日時：平成25年8月6日、7日「手指衛生」</li> <li>帰局職員及び中途採用者対象 開催日時：平成25年10月30日</li> </ol> <p>その他、育児休業明け看護職員、各フロア向けはその都度必要時、研修会を行っている</p>			



④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有)・無)

・ その他の改善のための方策の主な内容：

1. リンク委員活動の充実

①リンク委員会議を年3回開催した。

6月：平成24年度ICT目標の総括・リンク委員の役割についての説明・平成25年度ICT目標の説明

12月：周術期抗菌薬の目的、役割や選択、投与時間などについての説明・感染症サーベイランス実施状況  
ノロウイルス、インフルエンザ患者の対応の説明と吐物処理時の感染対策の実演

2月：院内におけるインフルエンザ、ノロウイルス発生状況と注意喚起・新型インフルエンザに関する当院の対応策  
血管留置カテーテル感染予防について当院におけるカテーテル関連血流感染防止術に関する問題点と取り組みの紹介

②リンク委員対象勉強会の開催

2. 感染症サーベイランスの導入と効果的なフィードバックの実践

3. 適正な畜尿および尿量測定の徹底

4. 職業感染防止対策の充実（針刺し切創、血液曝露の報告の徹底と針刺し器材の見直し）

5. 手指衛生の遵守率の向上（啓発とモニタリング）

6. 職種別、部署別の感染症教育（現場に即した感染対策実施のために事例を通じた教育を行う）

7. ICTラウンドへのリンクナースの参加

8. 中途採用者の免疫状態（B型肝炎、4種感染症）の確認（入職時に当院で実施しデータ把握ができるシステム構築）

9. 各部門で使用されている消毒薬の統一と有効な消毒薬の導入

(様式第6)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 3 回
・研修の主な内容：  麻薬及び向精神薬の処方と取り扱い（新採用研修医対象） 麻薬及び向精神薬の取り扱い（新採用看護師対象） ハイリスク薬の取り扱い（新採用看護師対象）	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・手順書の作成 (有) 無  ・業務の主な内容：  年1回、確認チェックリストを用いて、手順書通りに医薬品に関する業務が実施できているかを確認しチェックする。結果は、医薬品安全管理者から病院長に報告し、決裁を得て、薬剤部で保管している。	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・医薬品に係る情報の収集の整備 (有) 無  ・その他の改善のための方策の主な内容：  院内情報誌を作成し、情報提供している。 情報の提供方法は、電子メール、電子カルテ初期画面への貼り付け、病棟薬剤師による口頭説明を主としている。	

(様式第6)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 22 回
<p>・研修の主な内容：</p> <p>機器研修はH19.3.30医政局通知（有効性、安全性、使用方法、保守、不具合時の対応、法令上の遵守事項。2回／年）に従っている。人工呼吸器等の主要ME機器については医療安全部、看護部、ME部（当院の機器管理部門）等が協力、連携し機器研修を実施している。（平成25年7月より平成26年8月までの研修等の実施回数 22回、参加延べ人数約351名）</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・計画の作成 (有)・無</p> <p>・保守点検の主な内容：</p> <p>人工心肺装置、補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動器、保育器、高エネルギー放射線装置、診療用放射線照射装置及びその他主要ME機器の年間点検計画を策定し機器マニュアル、メーカー指示（点検内容、頻度）に従って各機器のチェックシートを作製し臨床工学技士が通常点検を実施している。また人工呼吸器は通常点検に加えてメーカー推奨の使用時間毎にメーカー定期点検を実施している。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・医療機器に係る情報の収集の整備 ((有)・無)</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>機器メーカー、臨床工学技士会、機器等納入業者及び医薬品医療機器総合機構（PMDA）のホームページ、またはPMDAからのメール配信サービスより各種関連情報を入手し関連部門へメール、通達回覧し、必要時には担当ME技士及びメーカーSEにより直接、当該部門で改善指導を行っている。全体に関わる事案については医療安全委員会（各部門リスクマネージャ全員出席）で報告、説明、注意喚起等を実施している。また機器管理部門（当院ではME部）では定期的に部内で機器保守管理検討会を実施し医療機器の効果的な保守点検管理に努めている。</p>	

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・無
・ 評価を行った機関名、評価を受けた時期  日本医療機能評価機構、平成24年1月22日認定	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
・ 情報発信の方法、内容等の概要	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要  複数の診療科により連携して診療を行う対診体制を行っている。	